

平成19年度大気環境保全活動功労者表彰受賞者及び功績

(個人: 7件 団体: 4件)

個人

氏名	年齢(歳)	職業	功績概要
いしかわ よしのり 石川 義紀	66	滋賀県立大学環境科学部非常勤講師	平成7年、滋賀県立大学への着任以降、滋賀県環境審議会委員、滋賀県環境影響評価審査会委員及び滋賀県公害審査会委員などの要職を歴任し、滋賀県の環境行政に多大な貢献。
くまがい やすお 熊谷 泰男	57	鹿島石油(株)鹿島精油所安全環境室室長代理	平成10年にISO14001マネジメントシステムを構築し、平成11年に認証取得以降一貫して環境の継続的改善に取り組み、大気、排水、臭気などは協定値を含めた規制値を大きく下回り環境負荷の低減に貢献。
こんどう みつお 近藤 三雄	59	東京農業大学地域環境科学部教授	平成14年度より屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールの審査委員として屋上・壁面緑化等の普及に貢献。 感覚環境街作り委員会の熱環境部会ほか各種部会に参画し、ヒートアイランド、かおり等の生活環境に係る行政分野にも多大な貢献。
さかい しげかつ 酒井 茂克	60	北海道環境科学研究センター主任研究員	固定発生源から排出される有害汚染物質の測定、防止技術の発展に尽力するとともに、これら有害汚染物質の排出実態や環境中での挙動に関する数多くの調査・研究を通じて、大気環境保全に多大な貢献。
ささき ゆうこ 佐々木 裕子	59	(財)東京都環境整備公社東京都環境科学研究所分析研究科長(兼)東京都環境局副参事	ダイオキシン類汚染の実態解明をはじめとして、昭和51年より一環して有害化学物質に関する研究を継続。 平成12年度よりダイオキシン類環境測定調査受注資格審査検討会検討員として、測定の精度管理の向上に多大な貢献。
ひらまつ こうぞう 平松 幸三	61	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授	平成8年以降、神戸市の環境影響評価制度における第三者機関としての環境影響評価審査会委員として、多年にわたり騒音の分野を中心として厳正な調査審議に尽力。
みかみ たけひこ 三上 岳彦	63	首都大学東京都環境学部教授	長年にわたり、東京を中心とする都市のヒートアイランド研究に従事。特に、1980年以降、都市内緑地のクールアイランド効果に関する現地調査研究を都内主要緑地(新宿御苑、明治神宮等)で実施し、大規模緑地が都市のヒートアイランド緩和に効果的であることを実証。

団体

団体名	代表者	功績概要
SRIスポーツ(株) 市島工場	こうじょうちゆう ありき のりたけ 工場長 荒木 則武	工場におけるゴルフボールの製造過程でのペイント塗装前の洗浄工程や吹き付け塗装工程において排出されるVOCの削減対策として、平成9年以降、塗料自体の改良のほか、塗装前の処理方法など生産技術上の改善、そして製造現場力を中心にした細かな改善に取り組み、平成16年度以降、使用するVOCの量を平成12年比60%の削減を実現。
シラカワ セキ テンモンダイ 白河の関天文台	おおたけ しゅうじ 大竹 修司	昭和62年発足。こども会、小学校、市民観望会など天体観測を通じた大気環境についての教育的活動を年間を通じて実施。
とうきょうとうたかく(かこうし) 東京都光沢化工 紙協同組合	りじちやう みやもと たけのり 理事長 宮本 武紀	組合員と関連資材供給者を対象として、光沢業界が循環型経済社会において印刷産業界の一員として社会的責任を果たし、地球環境保全を進めるために、業界自らの指針として「光沢加工サービスグリーン基準」を策定。 その結果、組合員60社の平成17年度のVOCの排出量が平成12年度比で39%(削減量:297,683kg)減少。
リツメイカン コウトウ ガッコウ 立命館高等学校	こうちやう しおざき すみお 校長 汐崎 澄夫	平成15年度より「環境と化学」の授業を開始し、簡易気体検知管を用いた車の排ガスによるNOxの測定などを通じて生徒への大気環境に対する意識の高揚を図っている。